

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年4月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694500028
法人名	社会福祉法人 建昌福祉会
事業所名	グループホーム西始良ほほえみ
所在地	鹿児島県始良市西始良1丁目39番32号 (電話) 0995-73-7855
自己評価作成日	平成30年3月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のこれまでの暮らしぶりが入居した後も継続できるように支援することを大事にしている。

例えば、これまで行きつけであった病院や理美容室、お店、行き来のあった友人や近所の方々、民生委員をはじめとした協力者との関係性は、本人のこれまでの暮らしの中から築き上げられた重要な財産であり、グループホームに入所したからといって途絶えるものであってはならない。また、私たち職員が無意識的に断ち切ってよいというものでもない。関係性を継続させることや過剰な管理・無駄な制限を取り払う努力をしていくことで、私たちが掲げている理念「毎日その人らしく」に近づけると考える。

また、日々の暮らしの中で、これまで行ってきた生活行事である「あくまき作り」「そば打ち」「しめ縄・門松作り」など、様々な作業を通じて、人に自分の体験や技術を伝えるということが、「役割」や「やりがい」を感じてもらえる機会となると考える。普段の生活においてもできる事に着目し、まだまだできることはある事を認識してもらい、入居者の可能性を信じて支援にあたっている。これらの事も理念の具現化につながるのではと考えて取り組んでいる。「ほほえみ職員心得十か条」の具現化に向けた研修等も実施し、職員自身が入りたいと思える施設づくりに取り組んでいる。隣接している学童クラブにしあいらやひまわり子ども園、西始良小学校との交流、地域の方々との交流を積極的に実施している。特にひまわり子ども園との交流は、入居者が楽しみにしている行事となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 同法人は、部門ごとに理念があり、ホームの理念は、「生きがいを持って、毎日その人らしく」を掲げ、本人が望む暮らしを実現することを目標に、朝礼で唱和し、ミーティングで振り返る機会を設けている。
- 自治会に加入し、回覧版や運営推進会議を通じて地域の情報収集をおこない法人職員が、地域で勉強会の講師を務めるなど地域貢献している。また、利用者や職員は、地域行事へ参加したり、事業所がボランティアを受け入れ、隣接する小学校や児童クラブ、認定こども園等の交流活動に参加するなど、地域と繋がり関係性が途切れることがないよう取り組んでいる。
- 職員は、年間行事計画を作成し、花菖蒲見学、太鼓踊り見学、山田のかかし見学、芝桜見学など四季折々の季節の移り変わりを五感で感じ、脳活性化や精神的安定を図り、日々の暮らしでは体験できない時間をともに共有している。また、生活行事(初詣、だんご作りなど)を取り入れ、「その人らしく」を意識し、その方の役割や生きがいに配慮しながら理念に沿ったケアの実現に向けて支援している。晴れた日には、ウッドデッキで日光浴をしながらお茶をするなど両ユニットの利用者にとって交流の場となっている。
- 職員教育が徹底されており、資格取得支援、給与や手当等の支給の整備がなされ個々に目標を設定して、法人内外の研修を受ける機会があり職員の意識も高いなど計画的にスキルアップを図る体制が整っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に読み合わせを行っている。職員心得十か条を作成し、検討会等の際に念頭に置き、話し合いを実施するようにしている。	職員は、月1回ミーティングの中で振り返りの機会を設けて理念を共有し理念に沿ったケアの実現に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入会させていただき、定期的な回覧版を持って届けたり、認知症の勉強会を開催したり顔が見える関係づくりをしている。また、自治会行事にも参加している。	地域とは、回覧版を通じて地域の情報を収集したり、隣接した認定子ども園と協力し地域の夏祭りに参加している。また、総会に参加し介護予防の勉強会、法人の協力の元に認知症の勉強会を開催したり、ボランティアの受け入れや学童クラブとの交流をするなど地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症の勉強会を開催し、認知症の理解を深められるようにしている。また、利用者と一緒に散歩をしていると挨拶したり、されたりの良好な関係を築いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に自治会長、コミュニティ協議会会長、民生委員、地域包括職員、市役所職員、学童クラブ管理者、認定子ども園園長、ご家族様に呼びかけて、運営推進会議開催している。事業所の取り組みやそれぞれから意見を頂きより一層質の高いサービスへつながるように生かしている。	会議は、隣接の認定子ども園で行われ事業所の実情やサービス提供の取り組み状況等の報告や課題などについて参加メンバーから意見を頂戴し、出された意見をサービスの向上に活かしている。管理者は、家族の参加が見込めるよう工夫するなど今後も取り組みが必要と考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には参加をお願いし、認知症への理解や周辺の施設動向、加算等についてのご助言等を頂いている。	市職員から独居高齢者や困難ケース等の支援について相談を受けたりするなど相互の協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には夜間以外は、施錠をせずに、可能な限り利用者の行動に合わせた支援を行っている。また、室内においても、過剰な制限や管理が働かないように、ご家族を含め自由な出入りを意識する等外からの目も意識している。	研修計画を作成し、内部研修にて身体拘束をテーマに研修会を実施したり必要に応じて外部研修会などにも積極的に参加している。職員は、言葉のかけ方や精神面などに配慮しながら、本人らしく生活を送ることができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の声や表情、身体の傷等がないか確認すると共に、私達職員が加害者にならないように勉強会や普段からのミーティング等で虐待とは何か話をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見等を利用している利用者はいないが、勉強会等に参加し、必要時に適宜利用支援が行えるようにしていきたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>制度改正等で内容が変わる場合には、適宜、家族懇談会を開催したり、別紙説明書類を作成し説明にあっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人として年1回、苦情要望の第三者委員を交えた検討会議を実施するように定めており、苦情要望の内訳数値を公表するようにしている。またそれを基に支援内容等の見直しを行っている。</p>	<p>「ほほえみ通信」を定期的に発行し、利用者の介護のようすや事業所の取組状況を報告し、個別面談や家族会を通じて意見交換して出された意見は職員全体で話し合い、運営に活かすよう取り組んでいる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼やミーティング等で自由な意見を求めている。利用者の視点、優先順位等を考えながら改善を図っている。</p>	<p>開設当初からの職員が半数程度おり、職場環境を整え定時勤務ができるよう配慮するとともに、人材育成に力を入れ資格取得に理解があり、勤務条件を整備するなどしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>研修会、勉強会を企画し定期参加を促している。また、実践研究会を開催し、法人全体の前で取り組みを発表する場を設け、モチベーションアップにつなげている。職場環境において、処遇改善、定時退勤を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得の支援、OJT、実践研究発表の取り組み、法人の階層別研修に参加し、取り組んでいる。また、外部研修にも参加し質向上に取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ネットワーク会議や連絡会、他法人のセミナー等に参加し、意見交換やイベント企画を通して地域連携を目的とした取り組みを実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に面談等を積み重ねながら顔見知りの関係を構築するように配慮し、不安や心配事の軽減を図っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の施設に預けてしまったという後悔や申し訳なさを受け止めつつ、ご家族にできることはご協力をもらいながら共にご本人の支援をしていくことで信頼関係を深めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、ご家族と話をしながら何が当面大事なのかを共に考えながら優先すべきことを決定するようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の気持ちやタイミングを大事にしながら「できる」ことで貢献してもらえる機会を作るようにしている。また、出来たことに対してしっかり感情に訴えかけるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との接点はできるだけ多くしてもらっている。必要であれば一緒に泊まってもらうことも承諾している。比較的家族の来所は多いと思われる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	冠婚葬祭の行事にはできるだけ参加することを奨めている。また、行き慣れたお店や理美容室等も出かけたり、ご友人の面会も奨めている。	家族の協力をいただきながら、墓参りや自宅訪問、年末年始の外泊をしたり、仕事関係の方の来訪があったりと関係継続途切れることがないよう支援している。携帯電話を使用される方も見守っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の潤滑油になれるように職員が介入している。しかし、お互い認知症があり擦れ違いも多くあるので、タイミングやイベント事等アクションも大事にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、退去になったご家族や亡くなった後のご家族のフォローを行っている。また、継続的な支援の必要性があれば、フォローにあたっていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や検討会の際は、ご本人のこれまでの暮らしぶりの情報を集めると共に、繰り返される言動から上手く表現できない本音の部分を探るようにしている。	発語がなくコミュニケーションが困難な方もあるが、これまでの生活歴や家族からの情報を参考に、職員間で情報を共有し、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からこれまでの仕事や経歴等を含め情報収集を行うと共に、これまで支援をされてきた関係機関の持つ情報も大事にして、支援に生かす様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族、職員から情報収集し、状況を確認している。できることできないことを見極めて支援に生かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族と介護職員と話し合いを持ち、時々来る知人や親戚にも話しを聞きながら、介護計画等を検討している。往診に来られる先生に状況を報告しつつ、意見を頂いている。	ケアチェック表を活用し、アセスメントして3ヶ月1回モニタリングしている。また、利用者の生きがいや本人の役割に視点を置き、その人らしい生活の実現を目標に設定して介護計画を作成し、チームケアにて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄関係においては日々の心身状態の変化やBPSDに直結しやすいので、記録を振り返りながら排泄の促しや水分摂取の声かけに繋げ、かかりつけ医とも連携をとりながら実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じた対応が必要な場合には、できるだけ応じるように努めている。買い物支援や外出希望、病院受診の支援とご家族にも協力を頂きながら柔軟な対応をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や隣接する児童クラブ、幼保連携型認定こども園、小学校などの交流を通じて見える関係を築くようにしている。特に子ども園の交流は楽しみのおかげになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診には基本ご家族に対応して頂き、今までの関係性を継続しながら支援を行っている。ただし、ご家族対応が難しい場合には協力医の往診をお願いしている。受診の際には、日々の様子やバイタルサインの記録を添付し適切な医療を受けられるよう支援している。	外来受診は必要に応じて職員が付き添い、また定期的に訪問歯科診療を受ける方があり、隔週訪問看護にて適切な医療を受けられるよう支援している。また薬剤師と連携し内服薬の情報交換を実施・支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、24時間連絡が取れるようにしている。日々の状況を確認しながらかかりつけ医との連携を図っており、必要に応じて受診等の同行や情報提供を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、ご利用者の情報提供書を基にご利用者のADL、身体状況の情報を伝えている。また、退院時のカンファレンスに参加し、適切な情報を基にサービス提供を行うよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については、その都度ご家族やかかりつけ医と話し合いながらその時の事業所でできることを伝えるようにしている。看取りについてもご家族が希望されるのであれば話し合いを持ち、ご家族にも協力を頂きながら対応している。	入居時、重度化や看取りの指針を提示し、「急変時や終末期における医療等に関する意志確認書」にて本人、家族の意向を把握するようにしている。重度化した場合など利用者や家族の思いに寄り添い、納得のいく最後を迎えられるよう主治医を始めとする関係者、家族、職員全員で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングの中で事故発生時の対応について勉強会や消防訓練等を活用して実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練を定期的に行っている。エリア毎においても豪雨災害、噴火を想定して実施している。火災における避難訓練を年2回実施している。</p>	<p>地域は、自治会長との協力体制があり、自主訓練は火災や地震を想定して年1～2回実施、消防署立ち合いの訓練を年2回実施している。また、水やレトルト食品などの備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の入退室時、声かけノックし入室する事への挨拶を実施している。排泄時には外に出て待つ等の配慮をしている。一人で入浴をしたいというご利用者についても安全を配慮しながら要望に応えられるようにしている。	言葉かけや呼びかける時の声かけなどは、本人の馴染みになっている呼びかけに統一するなどしている。また、入浴や排泄支援においては、羞恥心に留意し、プライバシーに配慮したケアに努めるなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望に応じるように配慮しているが、なかなか思いを伝える事が難しくなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望や意向に対しては極力それに沿うように配慮している。ここの生活リズムやペースに合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご利用者の希望や、季節にあった身だしなみができるようまたご利用者の楽しみに繋がるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の気分やタイミングによるが、簡単な手伝いを頂いたり、味付けの確認、盛り付け、配膳、後片付けと手伝って頂いている。	嚥下しやすいよう食事形態を工夫し食事を楽しんでいただいている。味付けや盛り付けをお手伝いいただくなど協力があり、誕生会の月は家族に連絡し、個別にお祝いができるよう支援し外食などしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量が把握できるように統一した記録用紙を活用し体調管理に努めている。ご利用者の嚥下状態に合わせて臨機応変に食べやすい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今までの利用者の生活習慣によるところがあるが、基本毎食後の口腔ケアを推奨している。ただ、強制はしていないので入居者の事情に合わせている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄をすることを取り組んでいる。夜間オムツを使用している利用者も排泄能力に応じて、日中はトイレに座り、排泄が出来る様に支援を行っている。	排泄のリズムを把握し、昼間はなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。夜間、ポータブルトイレを使用される方、昼夜テープ式おむつの使用もあるが、おむつの使用量を減らし保清に努められるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今までの生活習慣の中で便秘であった利用者には、薬に頼わざるを得ないことがある。食事の工夫（乳製品の摂取）や水分、運動などの対策も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は本人の希望に応じて楽しめるように配慮している。また、入浴剤を活用しリラクゼーション効果と保湿効果を高める支援を行っている。	週2回午後から入浴支援を実施しているが、曜日や回数を決めず必要に応じて入浴ができるよう臨機応変に対応している。同性介助にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活の中でご利用者個々の日中の活動を支援し、夜間によく睡眠がとれるように努めている。季節に応じた温度管理も心がけ快適に休息が出来る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情の綴りで情報の共有化を図っている。排便コントロールに関してはその日の状況等で調整をせざるを得ない。職員の連携を図りながら支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からの生活習慣の中で受け継がれてきた作業を中心として、伝える喜びや役割を感じて頂く機会を作っている。また子供たちの交流は楽しみにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を図る意味で、地域の馴染みの場所に連れ出している。個別においても希望があればその場所に行ける限り連れて行っている。難しい場合にはご家族に協力を頂き対応している。	日常的な外出は、減ってきているが、散歩を日課にしている利用者がおられたり、天候を見ながらドライブを楽しんでいる。利用者の希望があれば個別に外出支援を実施するなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>多額の現金の管理は他者に渡す危険性が高く忘れてしまうので、数千円単位の少額を持っていたり、買い物へ出かける事もある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の要望等もあるため適宜支援を行っている。また、年賀状を出し、つながりを感じてもらおうような支援を実施している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感が出るような装飾を利用者にも手伝ってもらいながら作成して飾っている。</p>	<p>対面式キッチンで、中央に畳スペースがあり、天井も高く採光があり、全体的に明るい共有空間である。壁には、季節を感じさせる飾りつけや行事の写真、手作りの作品などが掲示されている。また、廊下には長椅子が置かれ好きな時に座り、過ごしていただけるよう配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関、ホールにソファを置き、気の合う利用者同士が話をされたりくつろいだりしている。廊下にも椅子を置き自由に会話できるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>これまで使用されてきた家具やテレビ、写真など使い慣れた物を持ち込んでもらい、それぞれが好きなように配置し使用して頂いている。</p>	<p>鏡台、ラジカセ、単行本など馴染みの物を持ち込み、其々が居心地よく過ごせるよう工夫がしてある。また、安全な移動に配慮した手すりの設置、身体能力に合わせたベッドの選定がされ使い勝手よく環境整備されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関の段差と畳の段差が一番大きいものであり、その他はあまり大きな段差はない。玄関では座って靴が履けるように椅子を準備している。トイレ、浴室、廊下など手すりを設置し安全と自立への配慮をしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない